

## 金融リテラシー調査について

「金融リテラシー調査」は、「金融リテラシー・マップ」<sup>※</sup>の8分野<sup>※※</sup>に基づき、「金融知識・判断力」に関する正誤問題と「行動特性・考え方等」に関する問題とを組み合わせで行いました。その際、基本の53問は2016年調査と共通にし、前回と比較できるようにしました。

なお、今回は時事的な設問を設け、「成年年齢引き下げ」、「暗号資産（いわゆる仮想通貨）」、「キャッシュレス決済」についても調査しました。

※ 金融経済教育推進会議（事務局：金融広報中央委員会）作成による「最低限身に付けるべき金融リテラシー」の「項目別・年齢層別スタンダード」。

※※ 家計管理、生活設計、金融取引の基本、金融・経済の基礎、保険、ローン・クレジット、資産形成、外部の知見活用の8分野。



# 「金融リテラシー調査2019年」の結果を公表しました！

金融広報中央委員会では、本年7月「金融リテラシー調査」の調査結果を公表しました。この調査は、18〜79歳の個人を対象に金融リテラシー（お金の知識・判断力）の現状を調査したもので、2016年調査に続く2回目の調査となります。

【図表1】分野別正答率

金融リテラシー・マップの分野	正答率（前回）	(%)
家計管理	52.3	(51.0)
生活設計	50.8	(50.4)
金融知識	金融取引の基本	74.0 (72.9)
	金融・経済の基礎	49.8 (48.8)
	保険	54.4 (52.5)
	ローン・クレジット	54.4 (53.3)
	資産形成	54.8 (54.3)
外部の知見活用	65.6	(65.3)
合計	56.6	(55.6)

金融リテラシーの正誤問題の正答率は、全体で56・6%と前回調査（55・6%）を+1・0%ポイント上回りました。分野別に見ても、すべての分野において前回調査を上回っています【図表1】。

### 《全体感》

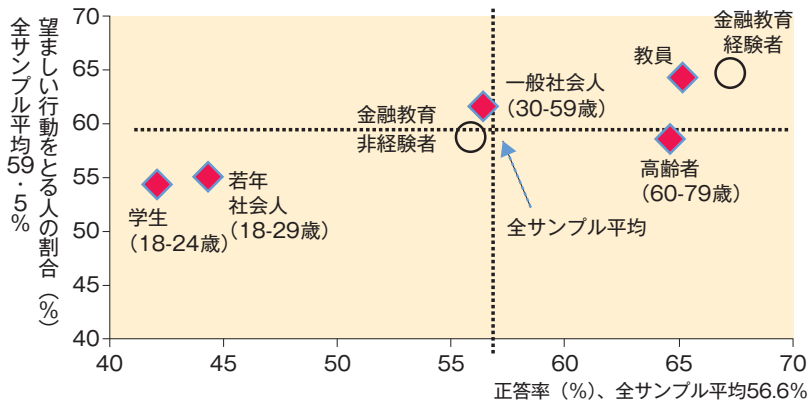
### 調査結果の概要

調査結果の詳細は「知るぽると」WEBサイトをご覧ください。

## 《セグメント分析》

正誤問題の正答率と望ましい金融行動をとる人の割合を職業・年齢階層別にグラフ化してみると、「教員」や、人生経験の長い「高齢者」の正答率が高い傾向にあります。また、金融教育を受けたことがあると認識している人の正答率は、そうでない人をはっきりと上回っています。より広範に、各年齢層に即したきめ細やかな金融教育を進めていくことが引き続き必要と考えられます【図表2】。

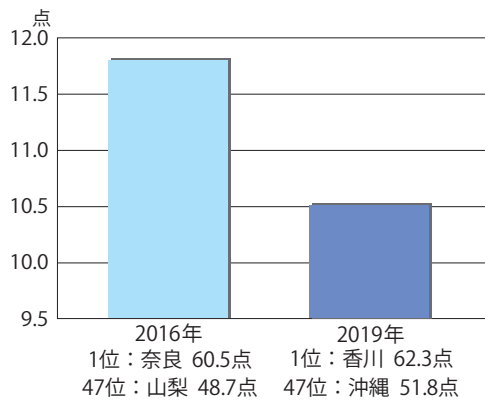
【図表2】 職業・年齢階層別の正答率と行動



## 《都道府県別分析》

正答率は、九州地方で横ばいになったことを除き、すべての地方で前回調査より上昇しました【図表3】。また、都道府県別の最高点と最低点の差を見ると、前回11・8点↓今回10・5点に縮小するなど、全体的に底上げされ、バラつきが縮小しているとの評価が可能です【図表4】。

【図表4】 都道府県別正答率の最高点と最低点の差



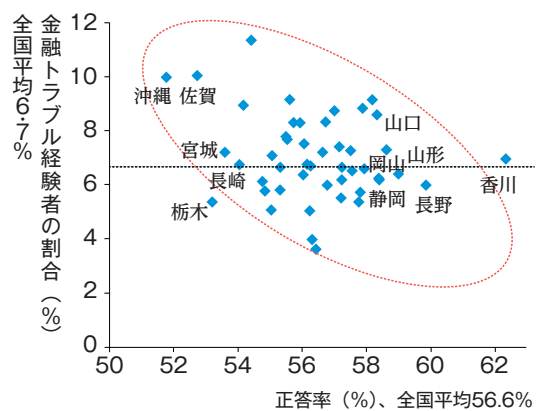
【図表3】 地方別正答率 (%)

地方	正答率 (%)	前年 (%)
全国	56.6	(55.6)
北海道	55.5	(54.6)
東北	55.7	(53.5)
関東	56.6	(55.9)
北陸	57.4	(54.9)
中部	57.7	(56.4)
近畿	56.7	(55.8)
中国	57.2	(55.9)
四国	57.3	(56.5)
九州	55.2	(55.2)

※ ( )内は前回

なお、正答率の高い都道府県では、金融トラブル経験者の割合が低い傾向がうかがわれます【図表5】。

【図表5】 正答率と金融トラブル経験者の割合



## 《国際比較》

海外との比較では、質問の仕方が必ずしも同一とは限らないほか、金融商品・金融サービス、税制、教育制度などの面でも事情が異なるため、幅を持つてみる必要がありますが、例えば、OECD調査と比べてみると、比較可能な正誤問題の正答率は、上位国と比べて「複利」、「インフレ」、「分散投資」の面で相対的に低い結果となっています。米国と比べると、若く中年層の正答率が見劣りしています。

## 《時事的な設問の結果》

暗号資産（いわゆる仮想通貨）を入手

### 金融リテラシークイズ

「金融リテラシー調査」の設問の一部は、「金融リテラシークイズ」として「知るほど」WEBサイトに公開されています。どなたでも手軽にチャレンジでき、ご自分の金融リテラシーのレベルを2分で確認できるほか、全国、性別、年齢別、都道府県別の平均点と比較することもできます。

ぜひ、「金融リテラシークイズ」をお試しください！



金融リテラシークイズ

検索

[https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/literacy\\_chosa/literacy\\_quiz/](https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/literacy_chosa/literacy_quiz/)

したことがある人は、全体の7・8%で、そのうち30代以下が46・8%を占めました。入手経験者は、「お金を損することがあっても仕方ないと思う」が5割弱を占め、投資のリスクを相応に認識していましたが、正誤問題の正答率は、平均の56・6%よりやや低い55・3%でした。キャッシュレス決済では、今後、あなたがキャッシュレス決済を増やすとしたらどのような場合ですかと尋ねたところ、「ポイントなど特典がより大きくなる」が41・0%と最多でした。一方で、24・5%が「現金で十分満足」と回答しており、「何があっても現金を使う」という現金派も一定数いることがわかります。